

館内
インフォメーション

平成27年度

展覧会
3回まで
無料!



県立美術館メンバーズ クラブ 入会受付中

山口県立美術館・山口県立萩美術館・浦上記念館では、平成27年度も県立美術館2館でご利用いただける「県立美術館メンバーズクラブ」の会員募集を行います。皆さまのご入会をお待ちしております。

- ▶ 申込期間：平成27年2月21日(土)～7月31日(金)
- ▶ 有効期間：ご入会日～平成28年3月31日(木)
- ▶ 年会費：一般2,000円・学生1,700円・シニア(70歳以上)1,400円
- ▶ 会員特典：2館の企画展(特別展)の中から好きな展覧会を3回まで無料。4回目以降は半額。普通展示(コレクション展)も3回まで無料、4回目以降は100円。図録の割引販売、会員限定イベントの開催など
※詳しくは、当館HPまたは会員募集チラシをご覧ください。

平成26年度 HEART2014 実施報告

昨年10月、第68回山口県美術展覧会を核とし「ものづくりとコミュニケーション」をテーマとするアート・プロジェクト、「HEART2014」を開催しました!

会期中は、作家有志による作品解説や小作品の販売など、県美展を彩る事業や工作パフォーマンス、ワークショップなど様々なイベントを開催し、多くのお客様にご参加頂きました。本事業開催に伴い、ご支援・ご協力を頂いた多くの皆さまに心より御礼申し上げます。

今年の県美展およびHEART2015は、9/26～10/12に開催します。



美術館カフェ “La Plume Bleue (ラ プリュム ブルー)”

原材料にこだわり、丁寧に焼き上げたマドレーヌやケック、ネージュはオープン以来人気の商品です。香り高いコーヒーや紅茶との相性も良く、気軽にお召し上がり頂けるお菓子として選ばれる方が急増中!



これらの焼き菓子やサブレなどを詰め合わせた季節ごとのギフトも販売しております。



ご予算やお好みの内容での詰め合わせ等ご相談も承っております。是非、お土産や贈り物などにご利用下さいませ。

2015 - 2016 schedule

	展示室 A	展示室 B	展示室 C	展示室 D	展示室 E	展示室 F
	4/12(日)まで「2014年度・第4期コレクション展」			4/12(日)まで「明治工芸の粋」		
4				休館(4/13-4/17)		
5	4/18(土)-6/28(日) <戦後>の写真	4/18(土)-6/28(日) 記憶の風景 —香月泰男のシベリア・シリーズ	4/18(土)-5/24(日) 雪舟と雲谷派1 日本画×ポスターアート	特別展 4/25(土)-6/14(日) 篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN		
6			5/26(火)-6/28(日) 雪舟と雲谷派2 生誕400年 いここで競演 等閑・等作	休館(6/29-7/9)		
7	7/10(金)-10/25(日)	7/10(金)-10/25(日)	7/10(金)-8/9(日) 集合! 日本画どうぶつえん	特別展 7/10(金)-8/30(日) 恐竜戦国時代の覇者! 世界大恐竜展		
8	松田正平小品展	1940-50年代の 香月泰男	8/11(火)-9/13(日) 探検! 日本画しよぶつえん	休館(8/31-9/10)		
9			9/15(火)-10/25(日) 小さきものは、 みなうつくし	9/26(土)-10/12(月・祝) 第69回山口県美術展覧会		
10			10/30(金)-12/6(日) 雪舟と雲谷派3 雪舟とその弟子	休館(10/22-10/23)・(10/26-10/29)		
11	10/30(金)-1/17(日)	10/30(金)-1/17(日)	12/8(火)-1/17(日) 雪中待春	特別展 10/30(金)-12/6(日) ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画 「マネジメントの父」が愛した日本の美		
12	美術と写真が 近づいたとき	変容するイメージ —シベリア・シリーズ の具象と抽象	休館(12/28-1/1)			
1	1/19(火)-4/17(日)	1/19(火)-4/17(日)	1/19(火)-2/14(日) 山口ゆかりの 日本画家	1/2(土)-3/6(日) 山口ゆかりの 洋画家・ 山口の工芸	1/26(火)-1/31(日) 第68回山口県学校美術展覧会 2/3(水)-2/7(日) 山口県立大学卒業制作展 2/10(水)-2/14(日) 山口芸術短期大学卒業制作展 2/18(木)-2/21(日) 山口大学教育学部美術教育卒業・修了制作展	
2	香月泰男の旅	香月泰男の太陽	2/16(火)-3/13(日) 雪舟と雲谷派4 梅匂ふ	休館(3/14-3/17)		
3			3/18(金)-4/17(日) 松林桂月 水墨の美	特別展 3/18(金)-5/8(日) リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展		

Information

- 休館日
月曜日(祝日・休日の場合は開館)、年末年始(1/2から開館)
※ただし、**ファーストマナー** 特別展開催中の第1月曜日は開館。
- 展示替期間
2015年4月13日(月)～17日(金)、6月29日(月)～7月9日(木)、8月31日(月)～9月10日(木)、10月22日(木)・23日(金)、10月26日(月)～29日(木)、12月28日(月)～2016年1月1日(金)、3月14日(月)～17日(木)
- 開館時間
9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 料金
コレクション展：一般300(240)円 学生200(160)円
※()内は20名以上の団体料金。
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。
- 特別展：別途定めた料金



山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural Art Museum
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
http://www.yma-web.jp/

f 美術館情報をフェイスブックで紹介しています

Yamaguchi Prefectural Art Museum

123

Contents
コレクション展

特別展

篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN

恐竜戦国時代の覇者! 世界大恐竜展

ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画
「マネジメントの父」が愛した日本の美

リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展

館内インフォメーション
年間スケジュール

山口県立美術館ニュース「天花」

天花

TENGE



《M夫人像》 松田正平 1953年 山口県立美術館蔵

コレクション展

松田正平小品展

7/10 金 - 10/25 日

表紙作品解説

《M夫人像》 松田正平 1953年 油彩/カンヴァス 山口県立美術館蔵

ある日のギャラリートークのこと。「この作品のモデルは、正平さんの妻の精子さんです」と話をすると、お客さんの中から「正平さんってヒドイ! 奥さんをこんな風に描くなんて(笑)」という声が聞こえてきました。それまで、チャーミングな奥さん(と正平さん)だな、と思って見ていましたが、なるほど、言われてみれば、愛する妻なのだから、もう少し美人に描いてもいいような気がします。

だいたい、この絵の人物には鼻がありません。耳もないし、髪の毛は頭になにか黒い塊をぽんと載せているみたいです。目と口元の表現も極めてシンプル。まるで夫人の外観をそっくりに写しとることに興味がない、と言わんばかりです。その一方で、必要最小限の要素がさらに単純化された顔には、モデルの個性が明確に感じられます。洗いざらしの白いシャツもお洒落。はじめて見たときには、どう反応していいのかわちょっと困る作品ですが、しばらく見ているうちにどんどん惹きこまれていく、そんな不思議な魅力のある肖像画です。

「売れない画家」の時代が長かった松田正平(1913-2004)を経済的、精神的に支えつづけた精子夫人。戦前のパリで修業をした洋裁家の夫人は、同じ芸術に携わる者として、画家・松田正平の最大の理解者であり、支援者でした。そして松田もまた、そんな妻を心から信頼していたのでしょう。結婚して10年の節目に描いた妻の顔は、肖像画としては破格の表現ですが、飄々とした画家の人物そのままの画面から、なんともいえない温かみを感じられます。

(山口県立美術館 専門学芸員 萬屋健司)

Collection

山口県立美術館ニュース「天花」第123号 平成27年3月発行 編集 指定管理者サントウバーブリタニヤサービス株式会社 発行 山口県立美術館 印刷 昭報社写真印刷株式会社

特別展

篠山紀信展

篠山紀信(1940-)は、1950年代後半から現在に至るまで、写真界の第一線を走り続けてきた写真家です。この半世紀を通じて、作家、アイドル、俳優、スポーツ選手など国内外の著名人、日本の伝統芸能、ヌードと自然、都市と建築など多様なテーマをとりあげ、次から次へとそのイメージを私たちの生活へと送り届けてきました。篠山の写真は、まさにそれぞれの「時代の写し鏡」といえるでしょう。



ジョン・レノン オノ・ヨーコ 1980年

2015年4月25日(土) - 6月14日(日)

(月曜休館、ただし **ファーストマンデー** 5月4日(月・祝)、6月1日(月)は開館)

主催 ▶ 山口県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、KRY山口放送
協賛 ▶ ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
協力 ▶ 松竹(株)
企画協力 ▶ 後藤繁雄事務所 + G/P gallery
特別協力 ▶ エフエム山口
特別協賛 ▶ 西京銀行
観覧料 ▶ 一般1,000(800)円、シニア・学生800(600)円
※シニアは70歳以上の方、()内は前売りおよび20名以上の団体料金。



山口百恵 1977年



宮沢りえ 1991年

独自のテーマをひたすらに追求することで、写真家の独自性、作家性を感じさせる写真というわけではなく、またいたずらなポピュラリティを追求する写真でもない。篠山紀信がその鋭い嗅覚でうつし続けてきたものは、それぞれの時代とともに現れて、圧倒的な勢いで光り輝き、私たちを魅了してやまない光景であるといえます。いつ現れていつ消えていくかも分からないこの光景に、俊敏に反応し、そのイメージをとらえているからこそ、篠山紀信の写真は時代を超えて私たちに語りかけてくるのです。

本展は、篠山紀信という写真家が、「写真」そのもののうちにある強力な「写真力」を、あらためて世に問う展覧会です。



AKB48 2010年



夏目雅子 1982年



大友瑠斗(9)・大友乃愛(7) 名取市 2011年

ジョン・レノンとオノ・ヨーコ、山口百恵からAKB48、東日本大震災で被災された方々まで、篠山が50年以上にわたり撮り続けてきたポートレート約120点を厳選し、「GOD」(鬼籍に入られた人々)、「STAR」(すべての人々に知られる有名人)、「SPECTACLE」(私たちが異次元に連れ出す夢の世界)、「BODY」(裸の肉体—美とエロスと闘い)、「ACCIDENTS」(2011年3月11日—東日本大震災で被災された人々の肖像)の5つのセクションで紹介いたします。各時代を象徴する人々のイメージを通じて、日本が歩んできた時代を、日本人の自信・すごさを共有したい—篠山紀信の本展に込めたメッセージを是非会場で体感してください。

特別展

恐竜戦国時代の覇者! 世界大恐竜展

—知られざる大陸ララミディアとゴンドワナの恐竜進化の謎—

7月10日(金) - 8月30日(日)

[月曜休館、ただし7月20日(月・祝)、**ファーストマンデー** 8月3日(月)は開館]



恐竜時代最後となる白亜紀を代表するトリケラトプスとスピノサウルス。トリケラトプスが生息していたのは、白亜紀後期のララミディア大陸(現在の北アメリカの西部)。一方、スピノサウルスは、白亜紀前期から後期にかけてのゴンドワナ大陸(現在のアフリカ大陸北部)に生息していました。本展では、まず、スピノサウルスの巨大化の原因と思われるゴンドワナ大陸の豊かな生態系の環境を紹介しながら、全長17メートルにも及ぶスピノサウルスの全身骨格や化石の展示を通じて、謎に包まれたその生態に迫ります。

次に、約1億6000万年前の最古のインロンから、プシッタコサウルス、プロトケラトプス、そしてララミディア大陸で多様な進化をとげるケラトプス科のさまざまな標本や生態モデルを展示し、原始的なケラトプシア類からトリケラトプスへといたる進化の道筋を詳細に辿ります。この失われた2つの大陸の生態系を比較することを通じて、生物多様性という生命維持システムが築き上げられた気の遠くなるような長い時間を体感してください。

■ **主催** ▶ 山口県立山口博物館、山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送
■ **観覧料** ▶ 一般 1,100(900)円/シニア・学生 900(700)円(予定)
※シニアは70歳以上の方、()内は前売りおよび20名以上の団体料金。

特別展

ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画

「マネジメントの父」が愛した日本の美

10月30日(金) - 12月6日(日)
[月曜休館、ただし**ファーストマンデー** 11月2日(月)、11月23日(月・祝)は開館]



《平沙落雁図》 室町時代 雲溪永怡
ドラッカー・コレクション Sansō Collection



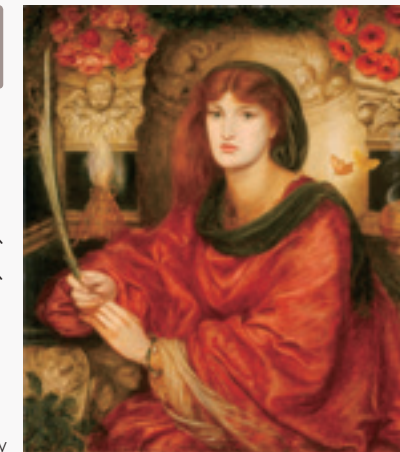
《半身蓮磨》 江戸時代 白隠慧鶴
ドラッカー・コレクション Sansō Collection

経営学者として世界的に著名なピーター・ドラッカー博士(1909-2005)は、日本美術のコレクターというもう一つの顔を持っていました。とりわけ室町時代の水墨画に対する博士の熱愛ぶりは際立っており、その蒐集品は日本国外に存在する室町水墨画のコレクションとしてももっとも優れたものとなっています。この展覧会は、ドラッカー・コレクションの中から厳選した約110点の作品を通して、日本の水墨画の魅力をあらためてご紹介するものです。

リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展

2016年(平成28年)3月18日(金) - 5月8日(日)
[月曜休館、ただし**ファーストマンデー** 4月4日(月)、5月2日(月)は開館]

19世紀後半のイギリス。「自然に忠実に」という標語のもとに、ラファエロの時代以前(初期ルネサンスや中世)の芸術を模範とする「ラファエル前派」が結成され、新世代の資本家達に熱狂的に受け入れられました。本展では、リバプール国立美術館が所蔵する大コレクションの中から、油彩など約60点を紹介します。



《シビラ・パルミフェラ》
1865-70年 ダンテ・ゲイブリエル・ロッセッティ
©Courtesy National Museums Liverpool, Lady Lever Art Gallery

THE PEOPLE by KISHIN